

# 教育合同

2023年6月15日  
第695号

1部10円(組合員は組合費を含む)  
郵便振替00960-7-117274

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合  
Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)

発行人 増田 俊道

連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

## 第35回定期大会

# 対面での討議が復活！

5月27日、三年ぶりとなる対面での定期大会がエルおおさかで行われました。

新型コロナウイルスが5類に移行したとはいえ、この間、組合の会議もすっかりオンラインを活用するハイブリッド型が定着してきました。そのような中、50名近くの組合員が参加し無事に開催されました。

全体会では現在、洋上生活中の増田執行委員長に代わり、高田副執行委員が挨拶を行いました。現在の労働者が置かれている状況と組合の存在意義を語り、「持続可能」な組合活動を展開しようと訴えました。

全体会の後、4つの分科会に分かれて組合員がそれぞれ討議しました。



### 第1分科会「組合活動の今後」

労働組合の組織率、弱体化が顕著になるなか、分断されハラスメントが横行する職場において組合は必要だと意見は一致しました。問題は執行部等、一部組合員に偏る組合活動にあることが指摘されました。

現状を打開するためには、執行部の業務負担の軽減やさらなる市民活動との連携を強めて地域の問題として取り組

む必要性が話し合われました。



### 第2分科会「職場のハラスメント問題」

ハラスメントとは、「嫌がらせ」や「いじめ」を意味する言葉で使用者には防止の措置を講じることが義務づけられています。分科会では、ハラスメントの多くの分類の中でもパワーハラスメント、モラルハラスメントについて職場の事例などが話し合われました。ハラスメントにより休職にまで追い込まれた事例でもハラスメントと認定されるためには時間も労力もかかりすぎる現状が報告されました。また、重要な点としてはハラスメント認定を得ることで何を勝ち取るのかを明確にしておくことの必要性も話されました。

### 第3分科会「非正規問題」

山下顧問の報告を中心に、会計年度任用職員(非常勤講師)の継続雇用問題について話し合いました。1年ごとの任用が終わり、地公法の縛りがなくなってからどう労組法で闘うか、府教委の団交拒否や、地公法の矛盾をどう突いていくか、ILOへの申し立ても視野に入れて話し合いま

した。最後に「会計年度任用職員は、内側から地公法を食い破る労働者になる」という言葉が印象的でした。

分科会のあとに行われた全体会では昨年度に新たに組合に加入した組合員の紹介のほか、分科会の報告が行われました。今年度の方針案は執行部提案がすべて採択されました。23年度もこの方針に従って組合を運営していきます。

## 当面の日程

6月17日(土) 17:00 大阪南館734  
14:00 ~ 競争・共生NO! 6.17.集会  
「日の君」強制反対大阪ネット

6月23日(金) 6.23.平和の集い  
大阪市北区区民センター ホール  
18:30 開会 講演:前泊博盛さん  
主催:沖縄と共に戦争に反対する  
平和の集い実行委員会

6月24日(土) 17:00 大阪606号室  
14:00 講演:高作正博さん  
改革・変革の批判的検討と今後の課題  
主催:グループZAZA 連続講座

### English Speaking Sub-working Group 英語で話す分科会

First, I would like to introduce two new ALT members to the EWA. They introduced themselves to everyone during the main conference and we were able to discuss their issues in the sub-working group. One of them is a direct-hire ALT and one of seven foreign ALTs at a private Buddhist junior and senior high school in Kyoto. The seven ALTs there are a combination of direct-hire and outsourcing which has created a difficult and confusing workplace. Power harassment and constantly changing working conditions have produced a stressful situation that with the support of EWA we are trying to work out.

The other was a direct-hire ALT in Sanda City who was told that after more than 13 years and 13 renewals his contract wasn't going to be renewed this past April. The city said the reason was that the 10-minute demonstration lesson during his renewal interview wasn't 'attractive' enough. Unfortunately due to timing and the new Fiscal Year Employment System there wasn't much we could do for him. Very fortunately, however, we heard from another direct-hire ALT member in March that their school system was still looking for an ALT and he was able to interview and was hired to teach in the high schools there. He updated the group on his new position and said he is still learning the ropes but is really enjoying the challenges and new experiences teaching high school students. Welcome to both our new members!

Another direct-hire ALT and I from Amagasaki updated the group on our success in negotiating with our city to eliminate the 65-year-old mandatory retirement age and rehire our ALT who recently turned 65. Good news that we can continue to work and help the students of Amagasaki without worrying about some arbitrary age limit. All-in-all a successful sub-working group.

# ストライキ権批准投票に必ず参加を！！

新しい日常は20人学級から

教育現場の労働者が 誰でも入れる みんなでつくる教育合同

# エール学園 賃上げに合意し協定書を締結に

エール学園支部、ならびに日本語学校業界について報告します。

日本語学校の業界は、労働条件で見ると、未だに非常勤講師の有給休暇制度がない、給与の支払いのための金融機関を指定するなど、遅れている学校がまだまだ多いです。

一方、経営面では、コロナ対策の緩和に伴って留学生が増加し、安定し始めている学校が多数です。特に、年に4回入学を受け入れるシステムの学校はこの傾向が強まっています。他方、留学生の出身国には大きな変化が見られま

す。これまで多かった中国からは、留学生がなかなか出できず数が伸びません。それを埋める形で、以前から増えていたベトナムに加え、ネパール・インドネシアが急増、他にフィリピン、スリランカ、ミャンマーなども増えています。

エール学園に関しては、入学が年に2回であるため、6月・1月の入学はなく、年度途中で学生数もクラス数も大きく増えることはありません。日本語教育学科は回復傾向にあります。進学・就職を目指す専門学校部門はこれから

の方が厳しくなります。また、これまで大きな割合を占めていた中国の留学生が回復せず、今後の経営安定化はまだ見通せない状況です。

## コロナ禍以降賃上げを勝ち取る

そのような中、2022年度に行われなかった賃上げを求めて2022年の末から3月にかけて団体交渉を行いました。上記のような事情で、要求に掲げた5%には至りませんでした。3%の賃上げについて合意をすることができました。また、専任講師の業務軽減に関しても大筋で合意しました。

6月2日に協定書(案)を手交し、まもなく調印の予定です。

エール学園支部では、これまで団体交渉をあまり実施してきませんでした。それより、非公式な折衝を中心に学園と話し合っており、そこでの合意は概ね実行されてきました。が、今回は団交を行って、書面に残すこととしました。今後、これまでより支部の活動を縮小する方向ですが、本部の支援を得つつさらに待遇改善を求めていこうと考えています。

土井典子(エール支部)

## 文化おちこち (257) ピースポート日記

(2)

ピースポート(PB)は4月30日にコロンボに寄港しました。私は、『光り輝く島(スリランカの意味)』の子どもたちというオプションツアー(OT)に参加して、内戦や天災によって保護者を失った子どもたちの施設で交流会をしました。今回のPBのOTは世界遺産などの観光が多いのですが、このような世界各地の人々との交流も魅力なのです。

コロンボを出ると、10日間のアラビア海横断。その間は、船内のイベントが目白押しで、乗船者もPBスタッフとともに実行委員会を作って企画・運営に携わっています。私は、5月2日に開催された「芸達者祭」の実行委員になるとともに、60~70歳代の4人で結成したバンド「ラブ&ピースポート114」で森田公一とトップギャランの「青春時代」を披露しました。乗客約1400人のうち20~30代は1割程度で、圧倒的に高齢者が多いので1970年代のフォークやポップスはとても受けがいいのです。

乗客による自主企画も始まりました。5月2日には、20歳の若者が発起人になって、「憲法記念日を前にして、憲法と私たちの未来の平和を考えようよ」という企画が実現しました。PBスタッフの野平晋作さん、乗客の木村利人さん(フィリピンでの体験をもとに「幸せなら手をたたこう」を作詞された方)もパネラーとして招いて、憲法9条の意味と自民改憲案などについて議論しました。参加者の発言も相次ぎ、5月8日に実施された「ノーモア沖縄戦命ど宝の会」与那覇恵子さんの自主企画「戦争前夜の日本 前線にされる沖縄から」に繋がっていき、私も「君が代」処分と組合活動と音楽活動を紹介する「被爆二世として生きる」の企画を5月24日に実施しました。

5月11日、スエズ運河を抜けてエジプトのポートサイドに寄港。その後、地中海を西進し、ギリシアのサントリーニ島とピレウス、イタリアのサルディーニャ島、スペインのタラゴナなど、風光明媚な寄港地での観光も楽しんでます。その辺の報告はフェイスブックで発信していますので、機会があればのぞいてみてください。【まっすん】

# 教科書全国集会2023

## 「琉球弧の軍事要塞化と戦争教科書」

6月3日 エルおおさかで「戦争教科書」はいらぬ！大阪連絡会主催の集会が前日の荒天にもかかわらず125名の参加で開かれました。

1部で相可さんから来年の小学校社会科、道徳教科書の分析があり、今回は自衛隊の記述や写真が目立ったこと、一方、領土問題と道徳では市民の意見、世論で消えた教材もあることなど声をあげていくことの成果について報告され、引き続き各地で取り組んでほしいことの要請がありました。伊賀さんからは教科書採択をめぐる右派の動向と各地教委へのアンケートの中間報告がありました。橋本さんからは昨年発覚した藤井寺市

の教科書選定をめぐる汚職問題について、その詳細が報告されました。当初、藤井寺教委の動きは大変鈍いものでしたが教科書の会も要請活動を行い、採択にかかるルールが作られたとのことでした。

最後に沖縄から来られた北上田さんより「辺野古新基地建設阻止の展望と琉球弧の軍事要塞化」についての現地レポートがありました。

山口昌孝(書記次長)



人工知能やデジタル化だとか世の中の動きは慌ただしい 無数のニュースの情報過多とそれを受け止めきれない日々 とにかく早くことを進めることが社会の流れに沿っているかのごとく マイナ

ンバーカードの急速な普及やG7を前に慌てて動いたLGBT法案など 慎重に議論を尽くしてどのように合意を形成するのが重要なはずだ 学校現場にも同様の動きがひろがる とにかく早く「効率的」に動くことばかりが求められてはいないか